



はじめに

私は、市長に就任して本年度で16年目を迎え、市長4期目の最終年度となります。

この間、市政執行にあたって、「第六次伊達市総合計画の着実な展開」「未来を担う人材の育成」「経営的な視点に立った行政改革の推進」を大きな柱とし、市民の皆さまがこのまちで育って、育て、暮らして良かったと心から思えるまちづくりに全力で取り組んでまいりました。

さて、我が国においては、一昨年の政権交代以降、大胆な経済政策の展開により、景気低迷に歯止めがかけられ、経済情勢は明るい兆しを見せておりますが、地方においては、まだ実感するには至っておりません。

産業構造の転換への対応の遅れによる雇用機会の減少や、交通インフラの充実に伴う移動の容易化・時間短縮などを要因とする都市部への人口集中が進行し、地方都市においては人口減少が著しく、また、予想を

上回る速さで少子高齢化が進んでおります。

さらには、これから本格化する社会保障改革やTPP協定を巡る動き、そして4月からの消費税の増税など、地域経済に大きな影響を与える多くの不安要素を抱えております。

このような状況の中、本市は、第六次総合計画の折り返し地点を迎えました。今後とも、これまでの取り組みを基礎とし、新たな挑戦を積み重ね、より「健康」なまちづくりに努めてまいります。

「健康」なまちをつくるためには、第六次総合計画の4つの重点施策を戦略的に、有機的に連携させることが重要であり、また、最大の効果を生むものと考えております。

「食」の取り組みにおいて地元の安全・安心な産品を作り、食すことで健康をつくり、「教育」を通じて将来を担う健全・健康な人材を育成し、「生きがい」づくりによって、高齢者や障がい者の社会参加を活性化して健康寿命を延ばし、本市の自然

「環境」の豊かさを維持保全することにより、将来にわたって健康づくりに適したまちを後世に引き継いでまいります。

また、これらが連携し健康なまちをつくることで、経済活動の活性化や医療費の抑制など、直接的には見えない効果を期待できます。

心と体の健康は、生活の基本であります。

まちが健康でなければ、そこに住む人も健康にはなれません。

市民の皆さまが将来も住み続けたいと思える、健康で笑顔あふれる、持続可能な魅力あるまちをつくってまいりたいと考えております。

市民の皆さまと英知を結集し、将来にわたり、明るい未来を築き、次の世代へ安心のバトンを引き継ぐため、全身全霊、市政執行に取り組んでまいりる所存であります。

市政へ臨む基本姿勢

平成26年度において、私が取り組む、基本姿勢について申し上げます。第一は、「健康な産業基盤の確立」であります。

産業基盤の安定なくして、地域経済の発展は図れません。

中でも、伊達市の基幹産業である第一次産業は、「食」によるまちづくりを進める上で、大きな役割を果たしております。

「食」は、人間が生活していく上

で最も重要な要素であり、「食」によって健康が左右されるといっても過言ではありません。

人口減少やTPP協定問題など、不安要素もありますが、そのような状況の中でも、消費者に信頼される安全・安心で質の高い農水産物の生産・供給体制を構築することが、将来において大きなチャンスにつながり、また、地消することによって、市民の皆さまの健康にもつながってまいります。

後継者不足や農業における耕作放棄地の増加など、厳しい現状もありますが、地域に合った産業のあり方を検証することで、チャンスの芽を見いだしていく必要があります。

本市におきましては、これまで様々な施策の展開により、産業基盤の強化に努めてまいりましたが、その手を緩めることなく、より一層取り組みでまいります。

第二は、「未来へ向けた観光基盤の確立」であります。

一昨年は、総合体育館や観光物産館、まなびの里公園パークゴルフ場がオープンし、昨年はまなびの里公園サッカー場がオープンしました。

さらに、今年は、総合体育館と一体となった温水プールがよいよいよオープンするとともに、観光物産館もリニューアルオープンします。

いずれの施設も、当初の予想を上回るご利用をいただき、今般の施設

の拡充に対しても大きな期待が寄せられているところであります。

こうした施設等の充実は、市民の皆さまのご利用はもちろんのこと、市外からのご来訪、交流人口の増加につながるものであり、このまちの新たな観光資源になると考えております。

また、現在、大滝区においては、地域の魅力を洗い出し、地域資源を活用した新たな観光メニューの開発に取り組んでおります。

これらの地域資源と「食」が連携することで、「健康につながる観光」として、その相乗効果を期待することができま

す。近年は、旅行ニーズが多様化するとともに、外国人観光客も増加しており、旅行スタイルも従来の画一的な観光から、個々のニーズに合わせた観光へと変化しつつあります。

このため、伊達市の豊かな資源を有効に活用しながら、伊達でしか体験できない、再び訪れたいくなるような「プラスワン」の付加価値を持った、ホスピタリティあふれる観光振興に取り組んでまいります。

第三は、「将来も住み続けられる地域社会の実現」であります。

誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らすためには、医療・福祉の充実はもとより、市民の皆さまが健康で生き生きと過ごせる地域社会を構築することが重要であると考えてお

ります。

このような中、本年、温水プールがオープンし、本市における健康づくりの拠点施設が、いよいよ動き出します。

昨年策定した「第2次健康づくり伊達21」に沿って、市民の皆さまの健康増進のために、誰もが利用しやすい施設の運営を進めてまいります。

また、ほしのご児童クラブの移転や、民設民営の「なないろ児童館」の開設により、子育て環境の充実が図られます。

さらには、市営住宅駅前団地2号棟の供用開始に合わせて、生活援助員を増員し、高齢者の生きがいづくりや地域コミュニティの強化に努めてまいります。

人口減少や少子高齢化による地域コミュニティの縮小は避けて通れない課題です。しかし、その中でも、市民の皆さまが豊かで健康に暮らせる持続性のある地域社会の実現に努めてまいります。

私は、このまちの将来のために、まちの魅力を磨き上げるとともに、さらなる挑戦を積み重ね、市民の皆さまの負託に応えてまいれる所存であります。

予算編成の基本方針

本市の歳入については、景気回復の兆候が地域経済まで波及しているとは実感できないことから、市税の

伸びは見込めず、地方交付税においても、大きな伸びを見込むことは難しい状況にあります。

また、歳出では、職員給与費及び公債費が減少した一方で、他会計への繰入金が増加傾向にあり、さらには、大型事業である市営住宅駅前団地買取事業などにより、大幅に縮減することは難しいところであります。

このようなことから、平成26年度予算編成にあたりましては、国の動向を注視しながら、引き続き、財政の健全化、つまり「財政の健康」を意識しつつ、事務・事業経費等の徹底した節減に努めたところでありま

す。また、「産業基盤の確立」及び「子育て支援体制の充実」、さらには、「老朽化した大滝区の施設整備」など、第六次総合計画とも整合を図りながら財源の重点的な配分を行い、必要な予算を計上したところであります。

この結果、

一般会計	184億	591万円
特別会計	108億3千549万円	
水道事業会計	12億7千96万円	
合計	305億1千236万円	

となり、前年度当初予算に比べて、22億301万円、7.8パーセントの増となったところであります。

おわりに

以上、平成26年度の市政執行に臨む、私の所信の一端を述べさせていただきました。

これからの難しい時代を生き抜くためには、かつて先人たちがそうであったように、新しいことに挑戦していくという精神、諦めない強い意志が必要であります。

そして何より、市民の皆さまが、そしてまち自体が健康であることが重要であります。

先人先輩方から受け継いだこの恵まれた豊かな魅力あるまちを、さらに磨きをかけて発展させ、そして、未来へ引き継いでいくという使命が、私には、与えられています。

次代を担う子どもたち、そしてまた、これまでこのまちを支えてきた先輩方、すべての市民の皆さまが住み続けられる、住んでよかったと思える伊達市のまちづくりに全力で取り組んでまいれる決意であります。

市民の皆さまに、今後とも一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます、私の所信表明といたします。

おまわり

詳しい内容は、市ホームページで公開しているほか、全文を掲載した「平成26年度市政執行方針」を担当窓口でお渡ししています。